

介護職員初任者研修カリキュラム(通学用)

<p>1 職務の理解(6時間)</p> <p>○到達目標</p> <p>研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実践し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p>		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス(居宅・施設)とそれ以外(障害者(児)サービス等)について理解する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設サービスと在宅サービスの違いについてディスカッションする。</li> </ul>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを解説する。</li> <li>・チームアプローチ・他職種との連携、地域の社会資源との連携について概説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれ受講生の介護体験を披露し合い、互いの「介護観」に対する理解を深める。</li> </ul>
合計	6	

<p>2 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)</p> <p>○到達目標・評価の基準</p> <p>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。</p> <p>・ 介護の目標や展開について、尊厳の維持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取</p>
---

り入れて概説できる。

- ・ 虐待の定義、身体拘束、及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	4.5 時間	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 利用者の自立と自律、相互依存と共生、ノーマライゼーション、QOL などの概念について概説する。利用者の尊厳のある生き方と、介護との関連を概説する。</li></ul> <b>【演習】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 虐待、身体拘束、プライバシー侵害、利用者の尊厳を損なう介護職員の言動などの具体例を示し、その背景にある状況や介護者の心理についてグループディスカッションを行い各々レポートにまとめる。</li></ul>
②自立に向けた介護	4.5 時間	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 介護における自立・自律支援、残存能力の活用、個人のニーズと生きがい及び介護予防の考え方について、テキストの事例を通して解説する。</li></ul>
合計	9	

### 3 介護の基本(6時間)

#### ○到達目標・評価の基準

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。

介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。

- ・ 介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- ・ 介護職としての共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
- ・ 介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点についてポイントを列挙できる。
- ・ 生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
- ・ 介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護に関わる職種(異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担)について講義する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例紹介の中で、看護師、栄養士、理学療法士等が果たす役割を受講生が列挙した後に、介護職に求められる専門性の特質について討議する。</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1.5時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業倫理について、専門職の倫理の意義、介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重に関して概説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業倫理に関わる講師の体験例を紹介した後に、受講生が各々の自分の体験による倫理観の変化について省察して文章化する。</li> </ul>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護における安全の確保、リスクマネジメント全般について概説する。事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)、情報の共有、感染対</li> </ul>

		策について講義する
④介護職の安全	1.5 時間	<b>【講義】</b> ・ 介護職自身の心身の健康管理について、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識について解説する。 <b>【演習】</b> ・ 講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。
合計	6	
<b>4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携(9 時間)</b> ○到達目標・評価の基準 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>生活全体の支援の中で、介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。</li> <li>介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 例: 税が財源の半分であること、利用者負担割合</li> <li>ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的な種類と内容、利用の流れについて列挙できる。</li> <li>高齢者障害の生活を支える為の基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度目的、内容について列挙できる。</li> <li>医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為について列挙できる。</li> </ul>		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	<b>【講義】</b> ・ 介護保険法制度の動向(予防重視型システムへの転換, 地域包括支援センターの設置, 地域包括ケアシステムの推進)について。及び介護保険制度の仕組み全般についてそのポイントを概説する。 <b>【演習】</b> ・ 制度に関わる基本的な用語について練習問題を通じて知識の確認をする。
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	<b>【講義】</b> ・ リハビリテーションの理念を解説する。また、在宅および施設における介護職・看護職の役割・連携について概説する。 <b>【演習】</b> ・ 医行為であるか問われる具体例を示し、ディスカッションを通してその判断基準を示す。

③障害者総合支援制度および その他制度	3時間	【講義】 ・ 障害者福祉制度の理念、障害者自立支援制度の仕組み(申請・支給までの流れ)の基礎的理解、成年後見制度や個人情報保護法と介護業務との関わりについて概説する。
合計	9	

## 5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)

### ○到達目標・評価の基準

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。

- ・ 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・ 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・ 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・ 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3時間	【講義】 ・ 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について、ケア(配慮)、傾聴、共感の概念を含めて解説する。コミュニケーション技法、道具を用いたコミュニケーションについて解説する。  【演習】 ・ コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する。
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	【講義】 ・ 記録における情報の共有化(介護における観察・記録の重要性。介護に関する記録の種類、個別援助計画、ヒヤリハット報告など、5W1Hの意義、ケアカンファレンス)の重要性を解説する。  【演習】 ・ DVDの介護場面を見て「観察」「記録」を実際に行う。
合計	6	

## 6 老化の理解(6時間)

### ○到達目標・評価の基準

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

- ・ 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。  
例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等
- ・ 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。  
例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3時間	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 老化に伴う心身の機能変化(日常生活への影響について、咀嚼機能の低下その他心身機能の変化)を中心に解説する。</li></ul> <b>【演習】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出す。加齢とともに起きるところとからだの変化の一覧表作りを行い、理解を深める。</li></ul>
②高齢者と健康	3時間	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 高齢者のかかりやすい疾病と生活上の留意点(骨折、筋力低下、循環器障害と対策、うつ病等の精神疾患、誤嚥性肺炎など)について解説する。</li></ul>
合計	6	

## 7. 認知症の理解(6時間)

### ○到達目標・評価の基準

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

- ・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。  
例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。
- ・ 認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。
- ・ 家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1.5時間	【講義】 ・ 認知症ケアの理念(パーソンセンタードケアなど)の視点、基本的な関わり方を解説する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5時間	【講義】 ・ 認知症の概念、物忘れとの違い、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動・口腔ケア、薬物療法等)の方法について解説する。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5時間	【講義】 ・ 認知症による生活障害、心理・行動の特徴、心理状態、不適切なケアについて、適切なケアの具体的な方法、コミュニケーションの方法、認知症の進行に合わせたケアの方法を解説する。  【演習】 ・ 様々な認知症の症状に対し、どのようなケアが考えられるかを討議する。
④家族への支援	1.5時間	【講義】

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）について解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族介護についてグループで話し合い、事例を提示して、どのようなレスパイトケアの方法があるか討議する。</li> </ul>
合計	6	

<b>8. 障害の理解(3時間)</b> ○到達目標・評価の基準 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。</li> <li>・ 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。</li> </ul>		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念とICF(ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方)、ノーマライゼーションについて解説する。</li> </ul>
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害について解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の症例についてICFを用いて情報を整理し、活動・参加への具体的なアプローチ方法を立案する。</li> </ul>
③家族の心理、かかり支援の理解	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の家族への支援方法、介護負担の軽減について解説する。</li> </ul>
合計	3	



## 9. こころとからだのしくみと生活支援技術(76時間)

### ○到達目標・評価の基準

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。  
 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

- ・ 主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・ 要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・ 利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・ 人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・ 人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・ 家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・ 装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・ 体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ 食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ 排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ 睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護の基本的な考え方	1.5時間	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICFに基づく介護、法的根拠に基づく介護について解説する。</li> </ul> <b>【演習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループに分かれて、生活障害という視点から、ICFに基づいて心身機能と活動・参加との関連を図に示した上で介護の役割を挙げる。</li> </ul>
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4時間	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護の実践に必要な人間のこころのしくみの基礎的理解について。学習と記憶、感情と意欲、自己概念と生きがい、こころとからだの密接な関係性について解説する。</li> </ul> <b>【演習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人が生きることと社会参加との関係から高齢者の心身の健康についてグループワークで討議をす</li> </ul>

		る。
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4.5 時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護に関連する人体の各部名称・機能に関する解剖・生理学的な基礎知識全般を解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体の構造を映像で見ながら、部位の名称や機能について受講生に質問・応答しながら理解を深める。バイタルサインの測り方を演習する。</li> </ul>
④生活と家事	4.5 時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活と家事の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について、生活の再構築という視点から解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ毎に家事全般に含まれる活動を列挙して1枚の図にまとめる。</li> </ul>
⑤快適な居住環境整備と介護	4.5 時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、障害者の日常生活に適合する居住環境整備、家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具について解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 快適な居住環境を整備するための知識や福祉用具を、映像や資料で紹介する。</li> <li>・ 様々な福祉用具に触れ、実際に使用して感想を述べる。</li> </ul>
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5 時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体状況、季節、場面に合わせた衣服の選択、着脱の方法、身じたく、整容、洗面の方法について実演・解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラスをグループに分け、練習ではペアを組む。身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容（洗面、整髪、爪の手入れ、化粧、ひげ剃り、口腔ケア）の方法の模範演技、反復練習、習得度確認を行う。</li> <li>・ 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9 時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動の意義。安全安楽な移動・移乗、体位変換、姿勢保持の方法、ボディメカニクスの基本原則、車いすの操作方法、車いすへの移乗方法、杖歩行の支援や、歩行補助具の使用方法など実演をまじえて解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラスをグループに分けて実施。</li> <li>・ ベッド上での体位交換、起居動作、ポータブルトイレや車椅子への移乗方法、歩行介助（片マヒの人、杖歩行の人の歩行及び階段の昇降等、視覚</li> </ul>

		<p>障害者の歩行介助)車椅子の基本操作方法、移動用具、ボディメカニクスの応用、重心・重力の置き方、残存能力の活用の仕方などについて講師が模範演技、反復練習、習得度確認を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外で車椅子操作の実践練習・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>
<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7.5 時間</p>	<p><b>【講義】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の意義、食事と健康、栄養素とその働き、栄養素と食品の関係、献立の立て方、食事介護の方法、嚥下のメカニズム、誤嚥防止、福祉用具の活用方法、介護食などについて解説し、実技指導を行なう。</li> </ul> <p><b>【演習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ単位で実施。</li> <li>・ 受講生各自に紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、歯ブラシ、食材等をいくつか持参させて、実践的な食事介護の練習を行う。</li> <li>・ 様々な介護食材、トロミ材を用意し、製作、試食する。</li> <li>・ 食事介助の基本方法を講師が模範演技し、反復練習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。</li> <li>・ 映像を利用して嚥下のメカニズムを学習し、利用者の状況に合わせた食事介助の方法を講師が模範演技する。受講生はそれに倣って繰り返し練習する。実践練習を通して習得度確認を行う。</li> <li>・ 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p><b>【講義】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入浴の介護方法、清潔保持の目的、手浴・足浴・洗髪、陰部洗浄、清拭方法等について解説し、実技指導を行なう。</li> </ul> <p><b>【演習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ単位で実施。</li> <li>・ 入浴、清潔保持に必要なさまざまな入浴用具、整容用具を紹介する。</li> <li>・ 家庭用の浴槽を準備し、入浴介助の手順、安全確認、福祉用具の使用法、利用者への接し方の実践練習を行なう</li> <li>・ 全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパッドの作り方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技し、実践練習を行う。目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ。</li> <li>・ 受講生に洗髪モデルを選任し、実際に洗髪する。</li> <li>・ ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ。羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。</li> <li>・ 受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</li> <li>・ 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>

<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>4.5 時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おむつ交換など排泄介護の方法、ポータブルトイレなど排泄用具の使用法、プライバシーや心理的負担への配慮、尊厳の保持、トイレ介助などについて解説し、実技指導を行なう。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ単位で実施。</li> <li>・ 講義前に予め紙パンツを全員に配布し、排泄体験をさせる。排泄環境整備の方法、排泄用具を紹介する。</li> <li>・ おむつやパッドの吸収ポリマーの能力、交換方法等を学ぶ。</li> <li>・ ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ。</li> <li>・ ポータブルトイレの構造、使用法を学ぶ。</li> <li>・ ベッド上でのおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ。</li> <li>・ 男性と女性の違いによる排せつ介助のコツを学ぶ。</li> <li>・ 羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。</li> <li>・ 受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</li> <li>・ 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>
<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>4 時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 睡眠に関する基礎知識、環境整備と用具の活用方法、ベッドメイキング、褥瘡予防について解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ単位で実施。</li> <li>・ 快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する。</li> <li>・ ベッドの構造、機能、操作法を学ぶ。安楽な姿勢・褥瘡予防を実際に行なう。</li> <li>・ ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ。</li> <li>・ ベッドメイキング方法を学ぶ。</li> <li>・ 受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</li> <li>・ 「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>
<p>⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の生死、寿命について考える。</li> <li>・ 終末期ケア、高齢者が死にいたるプロセス、利用者ニーズに寄り添う看取りの要件、死に向き合う高齢者の心理、看取りにおける介護職員の基本的態度、臨終が近づいたときの徴候と介護、苦痛を和らげる方法について解説する。</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師が示す事例・体験及び映画を鑑賞して、看取りの意義についてグループで討議する。</li> <li>・ 受講生各自が「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>

⑬介護過程の基礎的理解	6 時間	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な介護事例を通して介護の目的、計画に沿ったサービス提供の重要性、具体的な展開方法、介護過程とチームアプローチなどについて解説する。</li> </ul> <b>【演習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事例を提示して介護計画(個別支援計画)を立案、作成する。</li> <li>「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>
⑭総合生活支援技術演習	4.5 時間	<b>【演習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の具体的な事例を課題として、学習した介護実技を実践的に学ぶ。事例は2 事例を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う。</li> <li>事例の実技等の実施手順は別紙「総合生活支援技術演習計画書」の通り。</li> <li>「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる。</li> </ul>
	5 時間	<b>【実習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習を通して介護現場の実際を見学するとともに、共に体験して習得した知識と技術を確認、振り返る。</li> <li>実習後、別紙「実習レポート」を作成する。</li> </ul>
合計	76	

<b>10. 振り返り(4時間)</b> ○到達目標 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2.5 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学習してきたことを科目ごとに振り返り、総復習を行なう。</li> <li>講師との質疑応答を行なって、理解不十分な点の見直しと学習を行い、更に習得を深めていくよう指導する。</li> <li>「実習レポート」添削、返却をして総括する。特に身だしなみ、言葉遣い、態度について振り返る。介護職が身につけるべき知識や技術の体系を示して、実習中の気づきと結びつける。グループディスカッションを通して今後のキャリア形成について見通しを持つ。</li> </ul>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.5 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後介護職を続けて上で継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介する。</li> </ul>
合計	4	